



【資料2】郭行節墓誌拓本 『洛陽出土歷代墓誌輯繩』（中国社会科学出版社、1991年、390頁）より

670年の新羅征討軍に従軍した郭行節の業績を刻んだ墓誌の拓本。拓本とは、石碑などに刻まれた文字や模様を紙に写し取ったもの。

石碑本体は、中国の洛陽で発見され、現地の博物館に所蔵されている。形状は縦横 52cm の正方形。

墓誌中に「雞林道判官兼知子宮総管」とあり、新羅方面に向かう軍部隊の指揮官を意味する言葉が見える。雞林は新羅の異称。